

1週間から数か月先の情報の高度化に関する検討会 開催趣旨

検討会の開催趣旨

気象庁のこれまでの取組

気象庁では、スーパーコンピュータを活用したアンサンブル予報などの数値予報技術の改善の成果を活かして、早めの防災対策や社会経済活動の発展に資する週間天気予報や季節予報の精度の向上、内容の拡充、及び利活用促進に取り組んできた。

1週間から数か月先の情報を取り巻く状況の変化

近年は、顕著な大雨や大雪、記録的な猛暑などにより毎年のように各地で被害が発生している。今後、地球温暖化等の気候変動が進行すれば、災害をもたらすような大雨の頻度や極端な高温等が更に増加することが懸念されており、早めの防災対策による被害軽減や社会経済活動の生産性向上に資する1週間から数か月先の情報においても、気候変動適応の一環として情報を利用する重要性が高まっている。

気象分科会における議論

「2030年の科学技術を見据えた気象業務のあり方」（平成30年8月）及びその補強（令和7年6月）において、早期の事前対策や、各産業における気候によるリスクの軽減、生産性向上に資する1週間から数か月先の情報について、高度化の必要性が提言された。



本検討会の開催

これらの状況と、近年の数値予報の精度向上や今後の予測技術の発展、社会の多様なニーズを踏まえ、1週間から数か月先の情報及びデータ提供のあり方について、利便性をさらに高め、利活用を促進することを目的に、学識者、様々な産業分野における利用者、報道関係者等による「1週間から数か月先の情報の高度化に関する検討会」を開催する。

検討会のスケジュールと内容

令和8年7月頃にかけて3回開催してとりまとめを行い、8月に報告書を公表予定。

第1回（令和8年2月13日）

- 開催趣旨
- 1週間から数か月先の情報の現状
- 情報の高度化を進める背景
- 1週間から数か月先の情報に対する社会的ニーズ
- 情報の高度化の方向性

第2回（令和8年5月中旬～下旬）（案）

- 情報の高度化の詳細案と解説の充実
- 予測資料の一層の利活用

第3回（令和8年7月中旬～下旬）（案）

- 2030年より先を見据えた情報に向けて
- 1週間から数か月先の情報の高度化に関する最終とりまとめ案について